



窓から見た世界

箱田 晴大

バンコクでの初日の朝を迎え、私は、真っ先に宿泊先の窓から外の景色を眺めた。そこには、人気はあるが、まるで廃墟のような住居の数々が広がり、その奥には、先進国宛らの高層ビルが建ち並んでいた。私は人生で初めて目の当たりにする異様な光景に息を呑み、想像以上に極端な経済格差が存在することを実感した。更には、バスの窓からも広大に広がるスラム街を何度も目にし、私は、動揺を隠せなかった。

陶器製作体験の際、私は、初めてタイ人が住む家屋に足を運び、実際の生活を目にした。家屋には、初日の朝に見た建物の面影があった。だが、タイの人々は悠々と平穏な生活を送っていた。時間という概念を忘れるような彼らの生活習慣は、とても印象的で生き急ぐ私には愛おしく感じられた。また、そんな彼らは、全くタイ語が通じない私を笑顔で快く迎え入れてくれた。私は、タイの人々の心の温かさを感じ、言葉の壁を越えて心が通じ合っている気がし、ホッとした。

経済的に発展し、経済格差の是正に努めることも重要であるが、私は、それ以上に、タイ独自の風土、生活習慣、伝統、文化を継承していくことの意義を強く感じた。

将来、私は、大学・大学院で国際開発について深く学び、研究したい。そして、各国々の文化、伝統、生活習慣などを共存させながら、それぞれの国々が経済的だけでなく、文化的にも豊かになるように、現地の人々と協働して国際社会に貢献する。それが私の目標である。